

5月12日は「看護の日」
今年の「看護週間」は
5月11日(日)～17日(土)

～県民の身近な存在であり続けるために～



長野県知事 阿部守一

看護職の皆様におかれましては、日々の業務を通じて、地域社会の医療・健康・福祉の充実に多大なる貢献をいただいておりますことに敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

さて、医療の高度化や少子高齢化の進展に伴い、看護職の皆様は、チーム医療や地域包括ケアが提供されるさまざまな場において、専門性を発揮し活躍されています。

その中で、看護は時代の変化に対応し、医療と生活支援



若林 透

一般社団法人長野県医師会会長
看護職の皆様には、医療の最前線において感染の危険と隣り合わせの状況下で、献身的にご尽力いただいておりますことに、心より深甚なる感謝の意を表します。

医療・介護・保健といった広範にわたる分野において、看護職の皆様は極めて重要な役割を担っておられます。その実情をより多くの県民の皆様にご理解いただくことは、看護職の人材確保の促進のみならず、健康で活力ある地域社会の形成にも寄与するも

の皆様の看護職に対してのご理解、ご支援、ご協力に対して心より感謝申し上げます。



松本 清美

ごあいさつ

県民の皆様をはじめとして、多くの関係者の皆様は、私たちが看護職が直面する課題と、それに向けた未来の展望についてお伝えしたいと思います。

今年度のテーマを「未来を見据えて！2040年に向けた新たな挑戦」といたしました。看護の役割はますます多様化し、重要性を増しています。少子超高齢社会の進展や医療技術の革新、地

寄稿 医療安全管理の場で看護職に期待すること

社会医療法人財団慈泉会相澤病院 医療安全推進室
医療安全管理者(薬剤師) 荻無里千史

患者のニーズの多様化により、医療現場では高い専門性が求められる場面が増えています。ですが看護職を含め、一つの専門職がすべての課題を解決するのは難しく、さまざまな専門職が連携する「チーム医療」が重要になっていきます。今回は、長野県看護協会と共に医療安全活動に取り組んできた長野県病院薬剤師会から、相澤病院(松本市)の医療安全管理者である薬剤師の荻無里千史さんに、連携の場で看護職に求められる役割について寄稿していただきました。

How very little can be done under the spirit of fear. (恐れを抱いた心では、何と小さいことしかできないことでしょう！)

これは、ナイチンゲールの言葉です。皆さんは、医療の現場において医療安全管理を担う看護職がいることをご存じでしょうか？これも看護職の職能の一つだと私は思います。医療安全管理者とは、医療機関の安全管理(医療安全文化の醸成)を担う責任者です。患者さんに安全な医療サービスを提供することを目的に、医療機関で起こるさ

2040年には今よりも少子高齢化が進み、医療・介護サービスのニーズが増加・多様化していくことが想定されています。長野県看護協会は「いのち・くらし・尊厳をまもり支える看護」という基本方針を引き続き土台にしながら、15年後の地域を見据え、社会の

の双方の観点を持ち、病院、施設、在宅などにおいて、社会から寄せられる期待はますます大きくなっています。長野県では、総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン3.0」において、持続可能で安定した暮らしを守るため、充実した医療・介護提供体制の構築に取り組んでいます。看護職の皆様が一層活躍していただけるよう、看護の魅力のPR、看護師等の新規養成や資質向上への支援、働きやすい環境づくり、再就業の促進などに引き続き力を入れてまいります。

これからの皆様の活躍を期待しますとともに、より良い看護の提供に共に取り組んでまいります。

長野県医師会は、行政ならびに長野県看護協会と緊密に連携し、県民の皆様健康と生命を守るため、今後も看護職の養成および資質の向上に尽力し、地域医療および介護の一層の充実に努めてまいります。

「看護の日」の趣旨が広く浸透し、看護職に対する県民の皆様のご理解が一層深まることを、心より期待申し上げます。

域医療の変革など、私たちが看護職はこれからの時代を見据えた新たな挑戦に立ち向かう必要があります。今後、長野県内でさらに多くの看護職が活躍し、地域社会に貢献できるよう、2040年に向けて目指す看護を「社会の変化に対応し、住民とともにしあわせ暮らしと健康長寿を目指します」とともに学び、自ら学び、健康と生活を支えます」として掲げた「長野県看護協会将来ビジョン2.0」を6月の定時総会において公表し、皆様と共有してまいります。

これからも「県民の皆様身近な存在であり続ける」ことを使命として、看護職一同、日々努力を重ねてまいります。引き続き看護職へのご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

まず、恐れを抱くと行動は小さく慎重になり、同じことを行うにも時間がかかるようになりま。恐れが高じるとそのこと自体をしなくなることもあるでしょう。しかし、それでは患者さんのために、なすべきことができなくなってしまう。「人は誰でも間違える」のだとしたら、間違えを恐れるのではなく、間違えた経験を知恵に換え、同じことを繰り返さないことが大切なのだと思います。

間違えた経験を知恵に換えるために、長野県病院薬剤師会では、2014年から長野県看護協会と協働して医療安全活動に取り組んできました。ほかの職種を知ることで相互理解が生まれ、学ぶことで「恐れ」を払拭し、より良い医療を提供するための活動です。23年からは協働の幅がさらに広がり、臨床工学会、

変化に対応し、住民とともに幸せな暮らしと健康長寿を目指していくことを将来ビジョンに掲げました。今回は、地域を支える看護職の声を代表して3人の方の新たな挑戦や、今後看護職に求められていく役割をお伝えします。

未来を見据えて！2040年に向けた新たな挑戦



地区の特性に合わせた「健康づくり」を展開させていくために

保健師として2008年に松本市役所に入職して「健康づくり」に携わってきました。母子や高齢者のお宅を訪問したり、健康教室を開催したりと、担当する地区に足を運ぶことは保健師の大切な仕事です。昨年度は



奈川地区の健康教室では血圧測定や体調の相談も。一人一人に下の名前呼びかけ、不調や心配がないか尋ねた

松本市保健所健康づくり課 保健師 宮田 由希さん
西部保健センター（松本市波田）に在籍し、担当となった奈川地区へは週に2回ほど通っていました。
奈川の福祉ひろばでの健康教室には、70代前半〜80代後半の女性たちがいつも元気に参加し、「体力づくりサポーター」として健康づくりの輪を広げる活動をしてください方もいます。こちらから発信するだけでなく、皆さんからも奈川の伝統や食文化について教えてもらうことで、この地域に早くなじむことができました。ほかに、公民館での男性向け体力講座、小中学校での健康教育授業などを実施し、奈川地区でのより

効果的な健康支援に取り組みました。自治会や教育機関など外部の方々との連携も必要です。地域の特性に合わせて、地元の皆さんと一緒に健康づくりに取り組めることは、とても有意義なことです。
また住民の方と直接関わる業務だけでなく、生活習慣病予防や健康増進計画など、市の施策にも携わりました。課題は、働く世代の皆さんにもっと健康づくりに関心を持ってもらうこと。生涯にわたって「自分らしく」あり続けるために、「今は元気」という世代にも健康への意識を高めてもらう必要性を強く感じています。今後民間企業とも連携を強めるなど、活動の枠を広げながら、誰もがより身近に、より自然に生活に取り入れられる、健康づくりの仕組みを模索していきたいです。

自己決定の大切さ伝え「女性の一生」を支えたい

「相手の体に触る時は、必ず許可を取ってほしい」「あなたは大事な人なんだよ」。思春期の子どもたちに性的同意や自己決定の大切さを伝える出前授業を、主に松本市など中信地方の小中学校で展開しています。それぞれの学校の細かい要望に応じながら、男女の性欲の違いから、性感染症や若年妊娠のリスク、望まない妊娠の対処方法まで、イラストや図を用いて分かりやすい授業を心がけています。
助産師になりたての頃は、総合病院の産科病棟で月に80〜100件ほどのお産に立ち合う日が回るような日々でした。その後看護学

不妊カウンセラー・助産師 北原光子さん

校の教師などを経て一度退職し、10年ほど子育てに専念してから県看護協会の「eナースセンター」に登録。そこで育児相談室での勤務を請われ、妊婦さんや新米お母さんからの相談を受けるようになりました。以来、さまざまな場所で不妊相談や不育相談、育児相談を受けるうちに、自分で決める権利がある事柄に対して、「自己決定できる」という認識のない女性の多さが課題として見えてきました。そのような権利について、もっと早い時期に伝えなければと感じたのが性教育に取り組む一つのきっかけになりました。
助産師は「女性の一生」に関わる仕事です。



聖南中学校（東筑摩郡筑北村）の出前授業では「愛すること、生きることへの責任」と題し、性的同意の重要性などを伝えた

月経による経済損失の大きさも課題になっていきますが、そうした女性特有の健康問題に対し、地域や民間企業といった

力を合わせて命を守る地域をつくりたい

救命救急センターは、救急車やドクターヘリで搬送されてくる方や、救急外来を受診する患者さんを24時間365日受け入れています。目まぐるしく変わる環境の中で、患者さんの容態から治療の優先順位（トリアージ）をつけ、適切な医療を迅速に提供できるように日々取り組んでいます。
当院では、地域に向かい、住民の方への健康講座も行っています。飯田下伊那地域は特に山あいの集落が多く、場所によっては救急車の到着に時間を要することもあります。当院での救急車の受け入れ数は年々増加しており、多くの方を救うためには、スタッフの



救急搬送された患者さんが最初に運び込まれる「初療室」。迅速に受け入れられるよう常に万全の準備を整えている

飯田市立病院救命救急センター主任看護師 救急看護認定看護師 常盤忠志さん
技術向上はもちろんですが、地域の皆さんにも救急車が来るまでの対処法や熱中症の予防といった重症化を防ぐ知識を身に付けてもらうことが大切だと考えています。また、重症化する前に医療機関を受診できるように
私は2008年に「救急看護認定看護師」の認定を受けました。そのころ、当院には現在の「救命救急センター」のような体制は整備されておらず、より充実した救急医療が必要だと感じていたためです。その根底には、「適切な処置やケアを行うことで命を救いたい」という思いがあります。患者さんのSOSにいち早く気づき、不安や悩みに寄り添える看護師でありたい。そして、地域の皆さんと共に地域の方々の命を守っていき

「看護のこころ川柳」2025 優秀賞を発表します！

長野県看護協会では「看護の日・看護週間」に合わせ、看護職の魅力を五七五の17音で伝える「看護のこころ川柳」2025を募集しました。県内外の小・中学生、看護学生や看護職、一般の方から計382作品が寄せられました。大勢の方にご応募いただきありがとうございました。長野県看護協会役員による審査で優秀賞に選ばれた5作品を紹介します。

- 小・中学生部門 大丈夫 まほうの言葉 おまじない ありがとう
- 看護学生部門 実習中 患者の笑顔が 私の支え まっちゃん
- 看護職部門 飲まねえと 拒む薬を 飲まず技 ルーキ
- 一般部門 変わる世に 変えぬ看護の 思いやり やーくん
- カレンダー 花丸つけて 待つ看護 江戸川散歩

優秀賞5作品(作者解説入り)を、長野県看護協会ホームページに掲載いたします。ぜひ、ご覧ください。